

アンリツ株式会社 会社説明会

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 CFO

2016年2月3日



東証第1部 : 6754

<http://www.anritsu.com>

Anritsu

envision : ensure

本日の内容

1

アンリツの紹介

2

T&M事業の特徴と強み

3

中長期経営ビジョン

4

株主様への還元

アンリツは創業120年の老舗製造業です

1895 1900 1950 1975 2000 2015

無線通信



世界に先駆け
無線電話機を
実用化



マイクロ波
回線の構築に
貢献



国内の
デジタル
携帯電話の
普及に貢献



第3世代携帯
電話の擬似
ネットワークを
開発者の
机上に再現

日本初/世界発



国産第一号の
ラジオ受信機



国産初の
テレビジョン
放送機



世界最高速の
誤り検出で
安定的な
通信に貢献



世界初、無線
ネットワーク保守用
ハンドヘルド
測定器

有線通信



日本で最初に
設置された
街頭公衆電話機



光通信時代を
支える
キーパイクの
自社開発に着手



ファイバー上の
障害点を
探査し
光通信の
安全運用を支える



光伝送装置の
品質を保証し
超高速光通信の
普及に貢献

毎日の生活を支えるアンリツ

あなたの暮らしをより便利に、快適にしています



快適なコミュニケーションを支える



光通信の建設・保守を支える



車の高度化を支える



食の安全・安心を支える

1-1. こんな経験ありませんか？



**つながるまで
遅い！**



途切れる！



**電池の消耗
が早い！**

データ通信量の増加が
引き起こす
様々な通信トラブル

1-2. アンリツの計測ソリューションが「つながらない」の解決に一役買っています

いつでも快適に動く 端末の開発



- スマート端末の動作確認
- アプリの開発
- バッテリー寿命試験

どこでもつながる



例)
富士山での
ネットワーク
動作確認



通信ネットワークの品質向上

目に見えない電波を“見える化”して、
いつでもどこでも快適につながる
社会の実現に貢献します。

1-3. 計測 (T&M)事業のビジネス領域

T&M: Test & Measurement

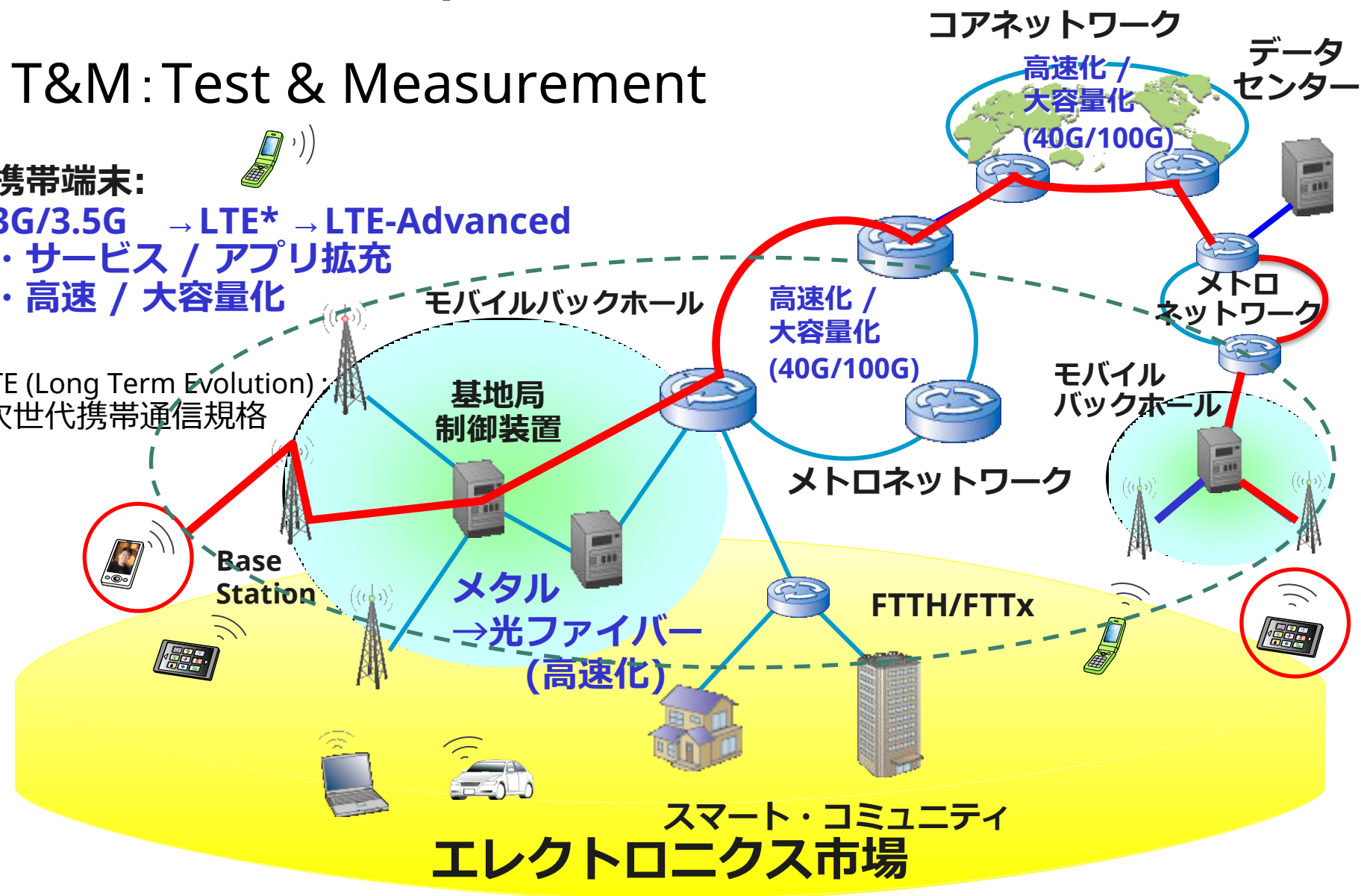
携帯端末:



3G/3.5G → LTE* → LTE-Advanced

- ・ サービス / アプリ拡充
- ・ 高速 / 大容量化

LTE (Long Term Evolution):
次世代携帯通信規格



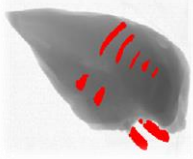
1-4. 食の安全・安心を守る①

食肉・加工食品など



食品・薬品などの生産ライン

一例



加工された鶏肉に残った骨を検出



- 計量機**
定められた量に小分け
 - X線异物検出機**
異物、形状検査など
 - 金属検出機**
金属異物を検出
 - 重量選別機**
質量や欠品のチェック
- 総合品質管理・制御システム 生産ライン全体の稼働状況を一元管理



安全・安心を
ご家庭へ

1-4. 食の安全・安心を守る②

X線異物検出機

食品や医薬品
工場の生産ラインに
納入しています

OK **NG**



高度な
画像処理技術

== 用途 ==
・異物混入検査
・形状検査
(割れ・欠けの発見)

1-5. 会社概要

アンリツは、創業以来120年にわたり世界の通信技術の発展に貢献してきたリーディングカンパニーです。




社名	アンリツ株式会社
本社所在地	神奈川県厚木市恩名5-1-1
創業	1895年(明治28年)
事業内容	通信用計測機器、産業機械、情報通信機器等の開発・製造・販売
資本金	190億52百万円(平成27年3月31日現在)
売上高	988億39百万円(平成27年3月期：連結)
従業員数	3,926名(平成27年3月31日現在：連結)
グループ企業	国内：10社、海外：29社
上場証券取引所	東京証券取引所第一部(証券コード：6754)

1-6. アンリツのルーツ


—有線・無線通信企業の統合—

1895年（明治28年）

 有線通信のパイオニア
石杉社創業

阿部電線製作所

1900年（明治33年）

 無線通信のパイオニア
安中電機製作所設立

1908年（明治41年）

共立電機電線設立



1931年
（昭和6年）

安立電気（株）設立

1985年
（昭和60年）

Anritsu アンリツ（株）に社名変更

1-7. 事業概要

T&M事業

通信ネットワークの品質向上

- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2015年3月期 実績 (連結) : 988億円

T&M 74%			PQA 16%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

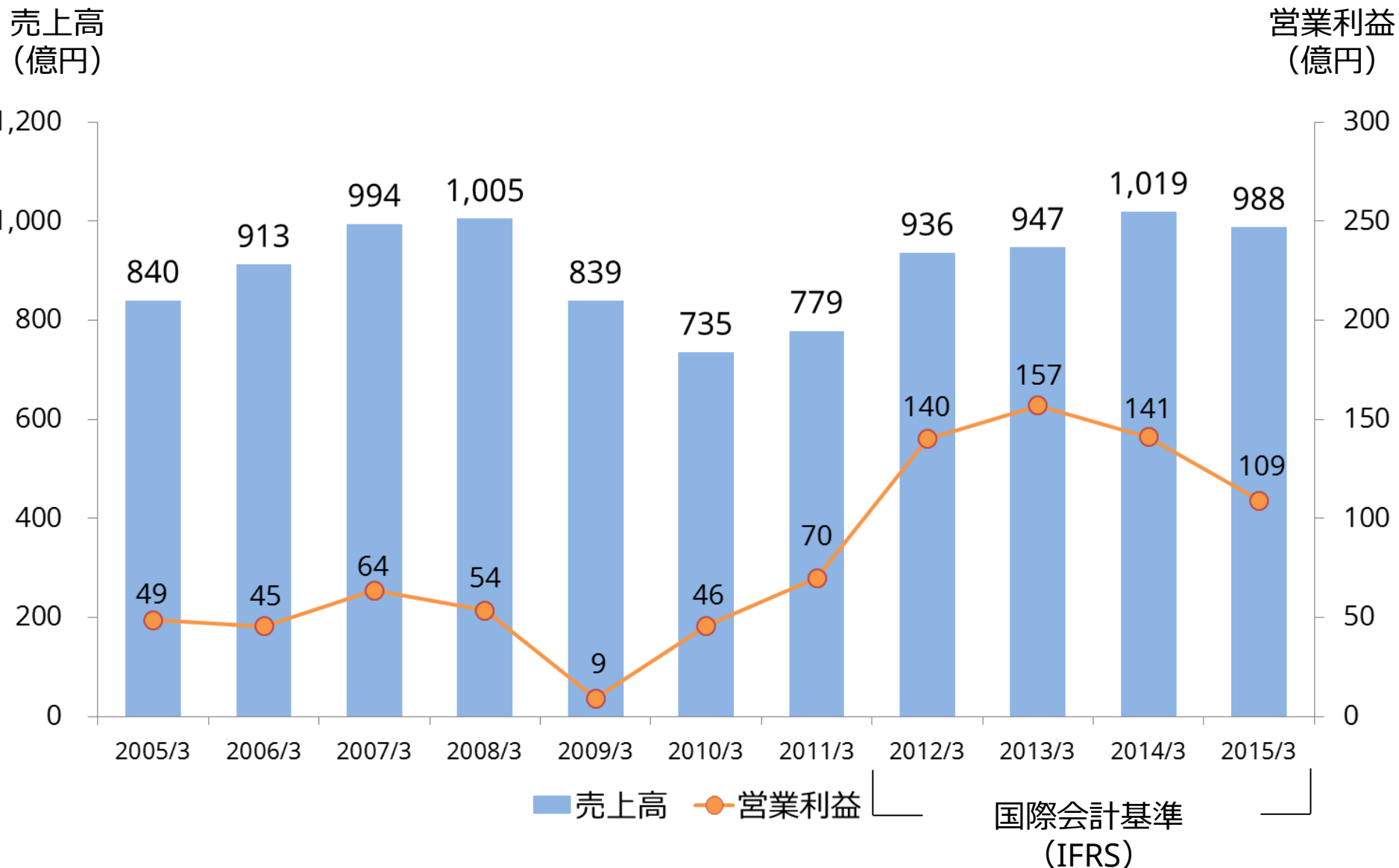
(T&M事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M事業 : テスト & メジャメント (計測)

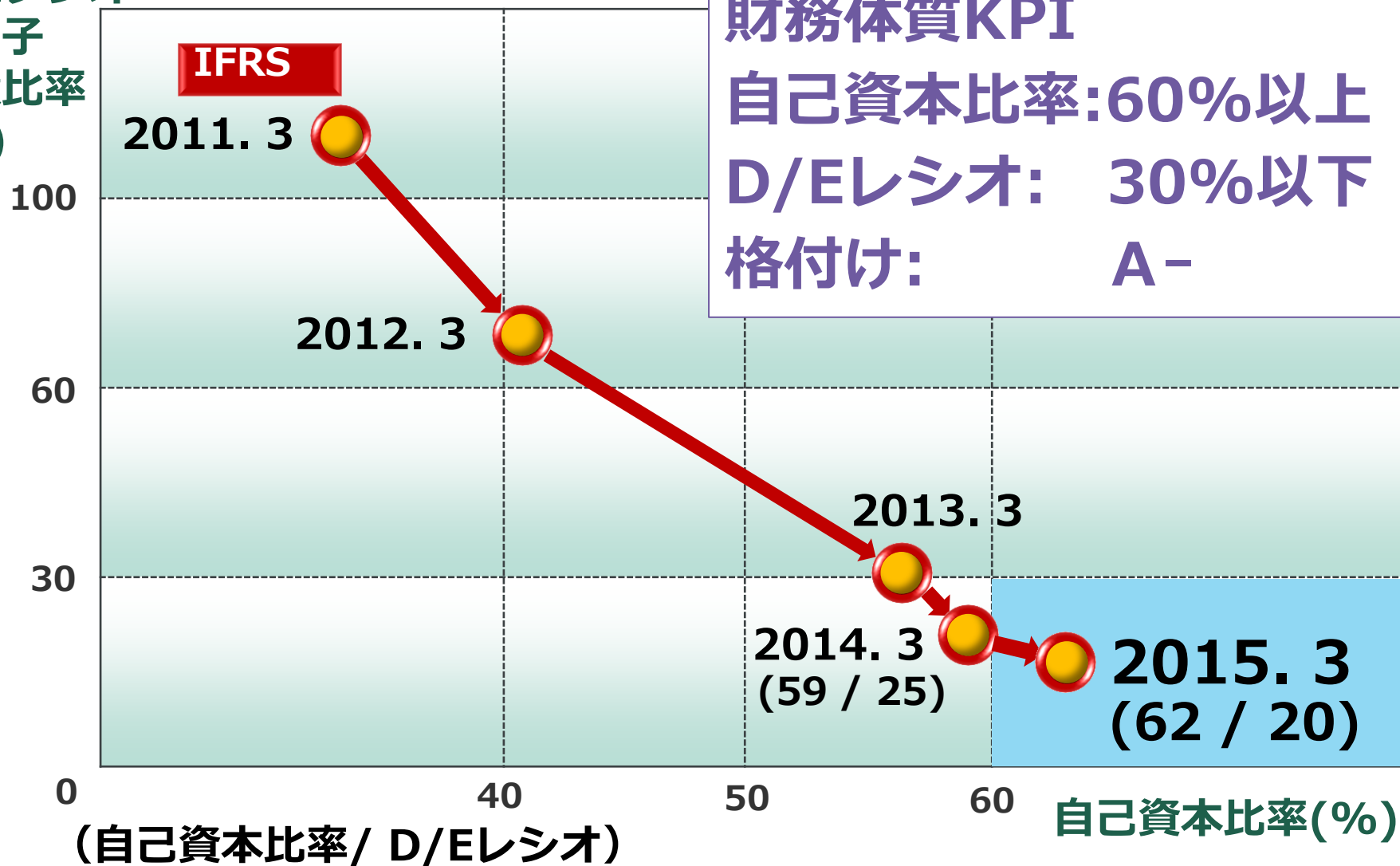
PQA事業 : プロダクツ・クオリティ・アシュアランス (旧 産業機械から名称変更)

1-8. 連結業績の推移



1-9. 強固な財務体質

D/Eレシオ
有利子
負債比率
(%)



2. T&M事業の特徴と強み (通信を支える計測事業)

2-1. 通信計測業界の特徴

- 技術的な参入障壁が高く、限られた主要プレイヤーによる競争
- 2G (GSM)、3G (W-CDMA)、4G (LTE) など、既存技術と新規技術の相互接続が必須



■ 主な競合企業

ローデ・アンド・シュワルツ (独) <非上場>

キーサイト・テクノロジー (米) <NYSE上場>

(旧 アジレント・テクノロジー)

2-2. 通信計測業界でのアンリツの強み

① 高い技術力

- 長期にわたり培われた信頼と高度な技術の蓄積
- 有線・無線、双方の技術を保有
- キーデバイスを自社開発

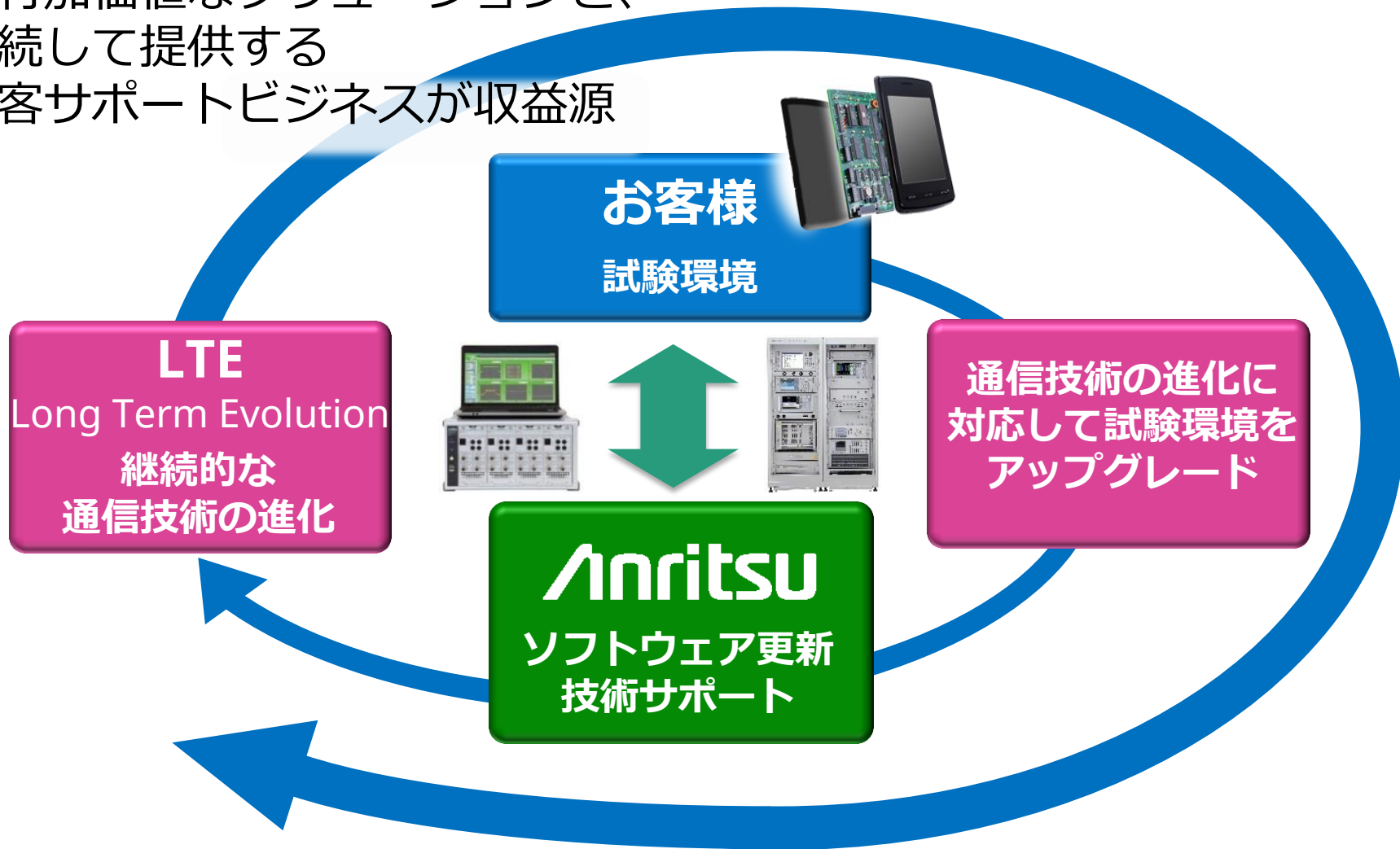
② グローバルな開発・販売・サポート体制

③ グローバルなキープレイヤーとの信頼関係



2-2. ①高い技術で社会の進化を支えるビジネスモデル

高付加価値なソリューションと、
継続して提供する
顧客サポートビジネスが収益源



2-2. ②グローバルな事業体制

日本除く世界**19**カ国に**24**の法人を展開
(日本・米国・欧州3極の研究開発体制)

各地域の拠点からグローバルなお客様をサポート

従業員数比率
(除 製造人員)

海外 50%
日本 50%



2-2. ③ アンリツはモバイル計測のキープレイヤー

世界の通信サービスを
リードする主要企業が
お客様



通信オペレータ

NTTドコモ、ソフトバンク、KDDI (日)

ベライゾン・ワイヤレス、AT&T、T-Mobile (米)

チャイナ・モバイル (中)、SKテレコム (韓)

ボーダフォン (英)、オレンジ (仏)、等

チップセット
メーカー

クアルコム、インテル、ブロードコム (米)

メディアテック (台)
スプレッドトラム、ハイシリコン、等、 (中)

スマートフォン/
タブレット端末メーカー

ソニー、富士通、シャープ、京セラ (日)

アップル、アマゾン、グーグル、マイクロソフト (米)

サムスン (韓)
レノボ、ファーウェイ、シャオミ、等 (中)

3. 中長期経営ビジョン

3-1. 2020VISION



3-2. 3力年経営計画 GLP2017

GLP2017

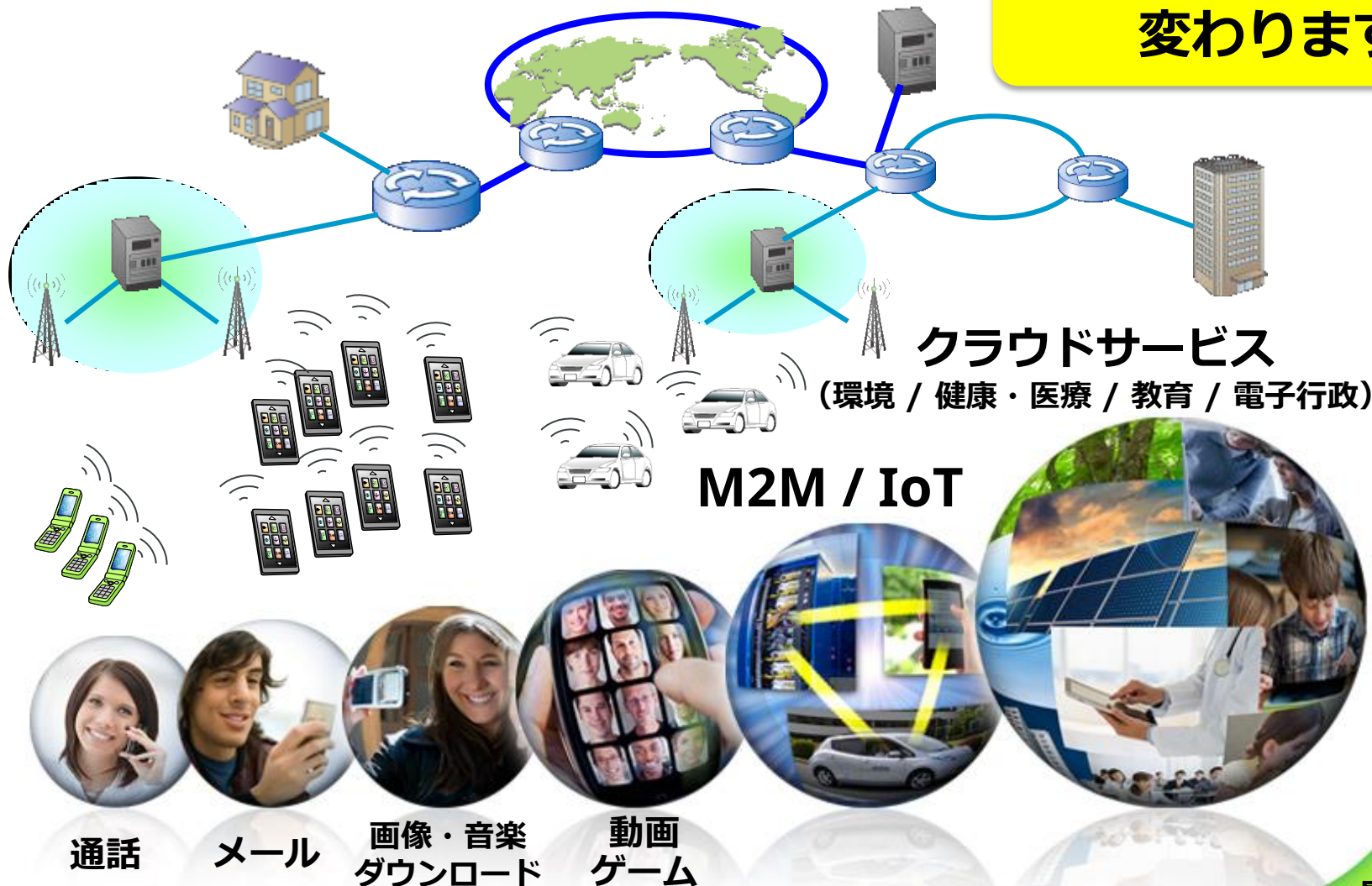
指標		FY2014	FY2015	FY2017
売上高		988 億円	1,030 億円	1,200 億円
営業利益		109 億円	110 億円	170 億円
営業利益率		11 %	11 %	14 %
当期純利益		79 億円	80 億円	130 億円

T&M	売上高	734 億円	750 億円	900 億円
	営業利益	89 億円	90 億円	135 億円
	営業利益率	12 %	12 %	15 %
PQA	売上高	162 億円	180 億円	200 億円
	営業利益	8 億円	11 億円	16 億円
	営業利益率	5 %	6 %	8 %

(参考) GLP2017想定為替レート：1米ドル=115円、1ユーロ=130円

3-3. 計測事業の未来展望

通信ネットワークが
変わります



大増の量

3-4. T&M事業の成長ドライバー

アンリツのビジネス拡大の  **Keyword**



①

スマート端末の普及



②

モバイル通信の技術進化



③

ネットワーク通信網の拡充

3-4. ①スマート端末の普及

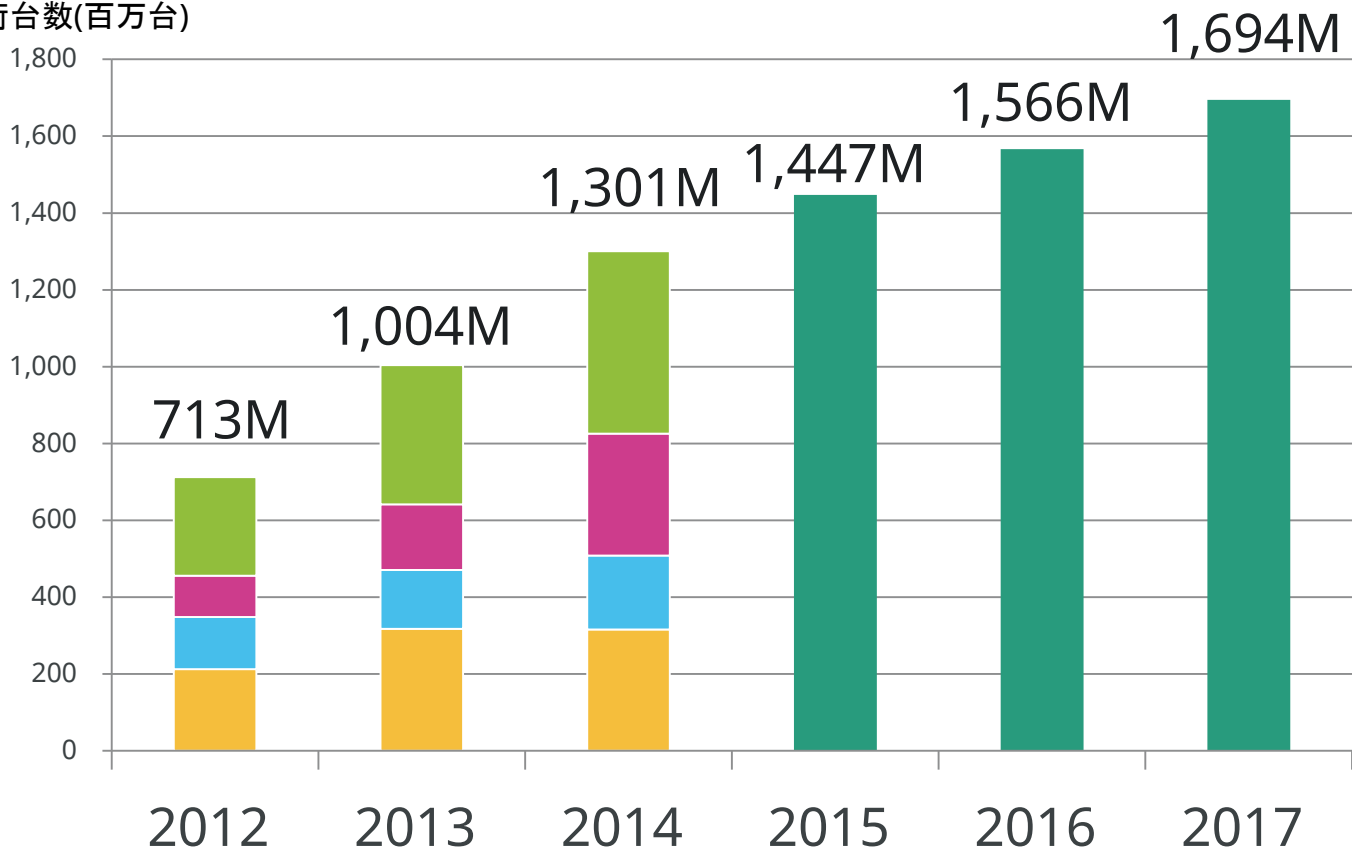
Keyword



スマートフォン出荷台数 (~2017)

世界的な普及とともにスマートフォンの生産が増加
先進国から新興国へ普及が拡大

出荷台数(百万台)



- 当社推定
- その他
- 中国社製
- アップル
- サムスン

中国社製 : Lenovo / Huawei /
Xiaomi / ZTE / Motorola / TCL

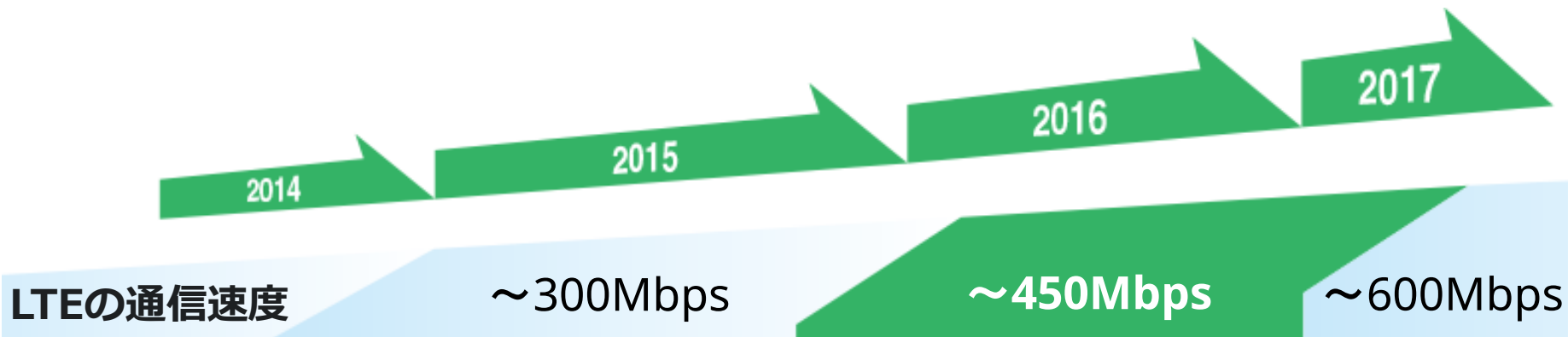
データソース: IDC / 当社推定

3-4. ②モバイル通信の技術進化

Keyword



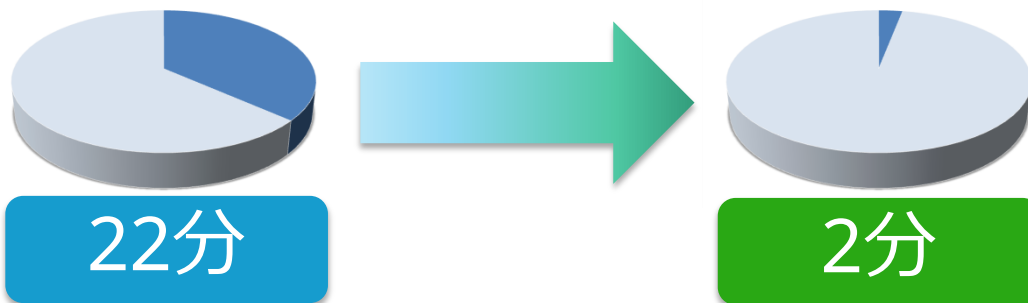
通信技術の進化で、
今まで以上に、サクサク快適な通信環境が実現します



例えば・・・

1本の映画をダウンロードする時間が**1/10**に。

DVD1枚 120分の映画のダウンロード



*3G通信(42Mbps)と次世代LTE通信(450Mbps)との比較。[伝送効率70%で試算]

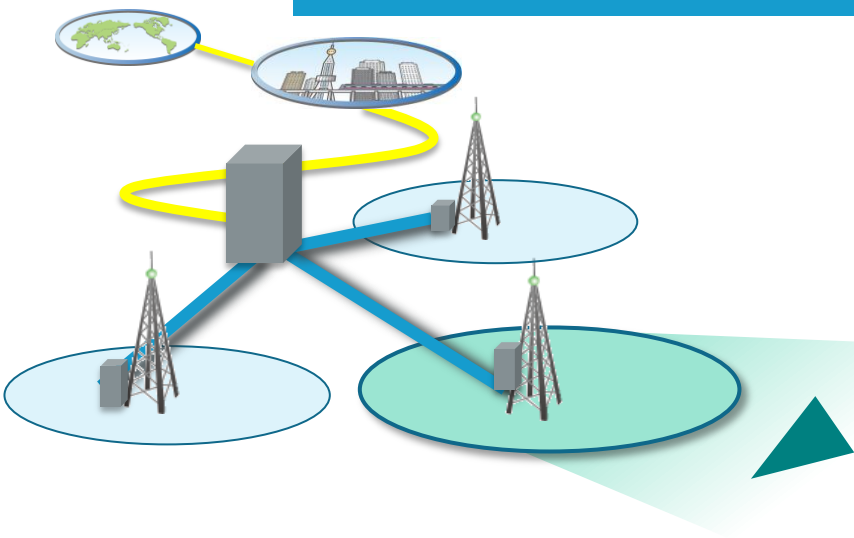
3-4. ③ ネットワーク通信網の拡充

Keyword

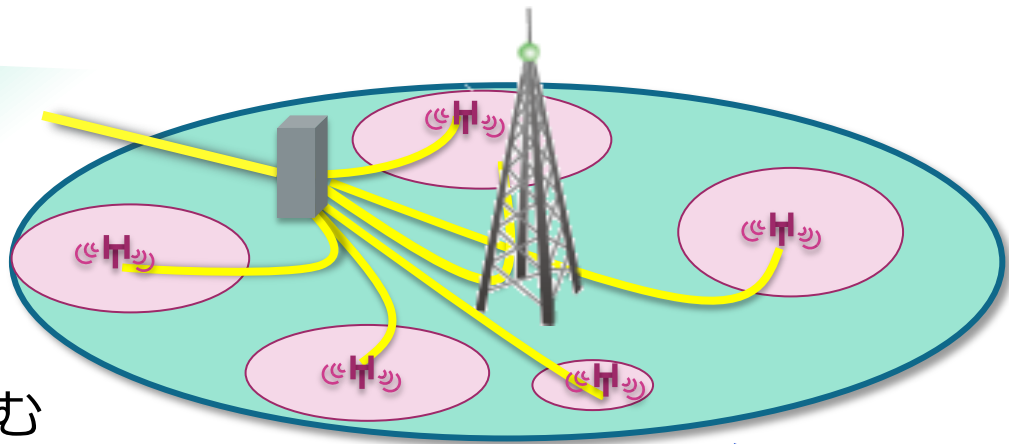


人やものがインターネットにつながる時代（IoT社会）を支えるために、通信ネットワークが変わります

現在のLTE通信網



これからのLTE通信網



- 小さな基地局が設置され、通信回線の混雑緩和、高速化が進む

IoT/5Gを支える社会インフラとして さらに進化

3-5. IoT社会を支えるアンリツのT&M技術

自動運転の
実用化の風



3-6. 運転支援システムと自動運転の違い



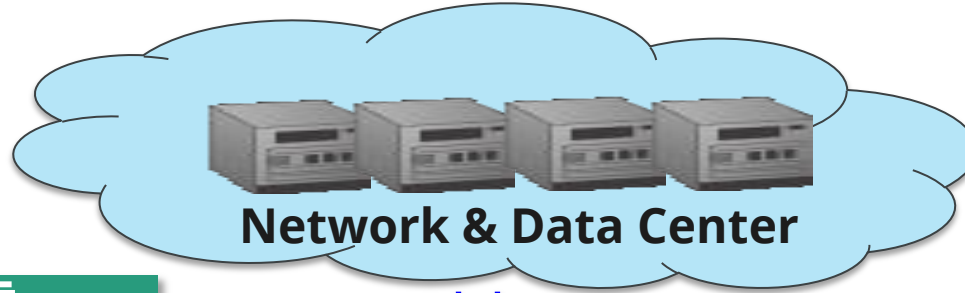
図1. 自動車安全のためのシステム構成(例)

- 車にはさまざまなセンサーやカメラがあり、車の周りの状況を確認することはできる。
- しかし150m以上先の道路の状況や右左折した先の状況、この先のレーン数の増減やレーン逸脱防止用の白線の状況を知ることはできない。
- 車のセンサーやカメラのみでは運転支援システムの域を超えることはできない。



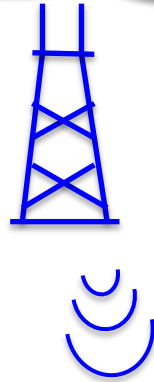
IoT時代の車とは？

3-7. IoT時代のコネクテッドカーが自動運転を可能にする



路車間通信

インフラからの情報
(信号機、規制、事故、
歩行者) をネットワー
クを通して取得

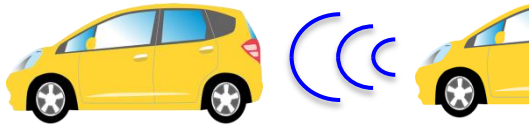


歩車間通信

歩行者の持つ携帯
端末により車側が
歩行者の存在を
認識

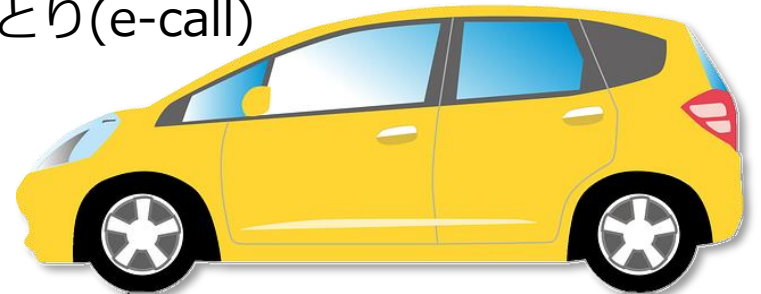
車車間通信

車同士が無線通信し、情報
(自車他車位置情報、速度
情報) をやり取り



コネクテッド・カー

道路情報や事故情報など
を逐一やりとり(e-call)



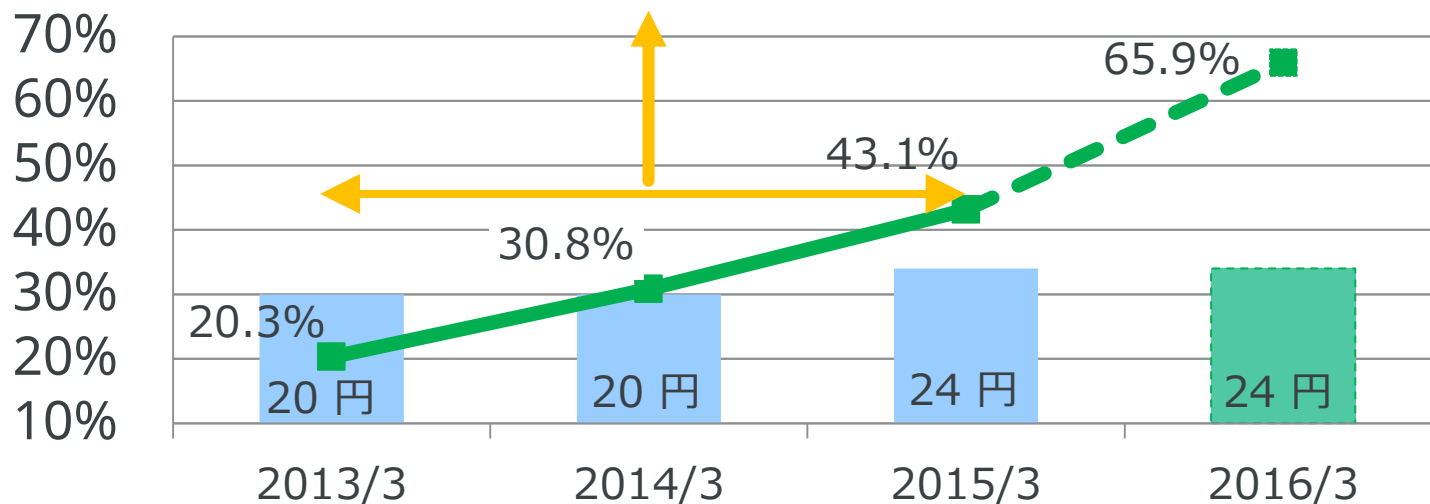
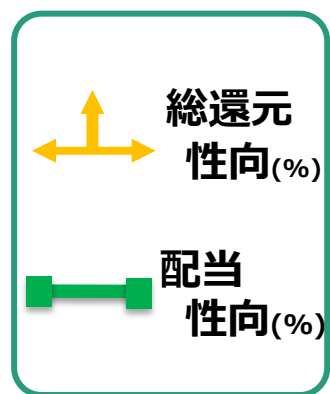
4. 株主様への還元

4-1. 株主還元の充実 ①

年間配当額の推移と予想

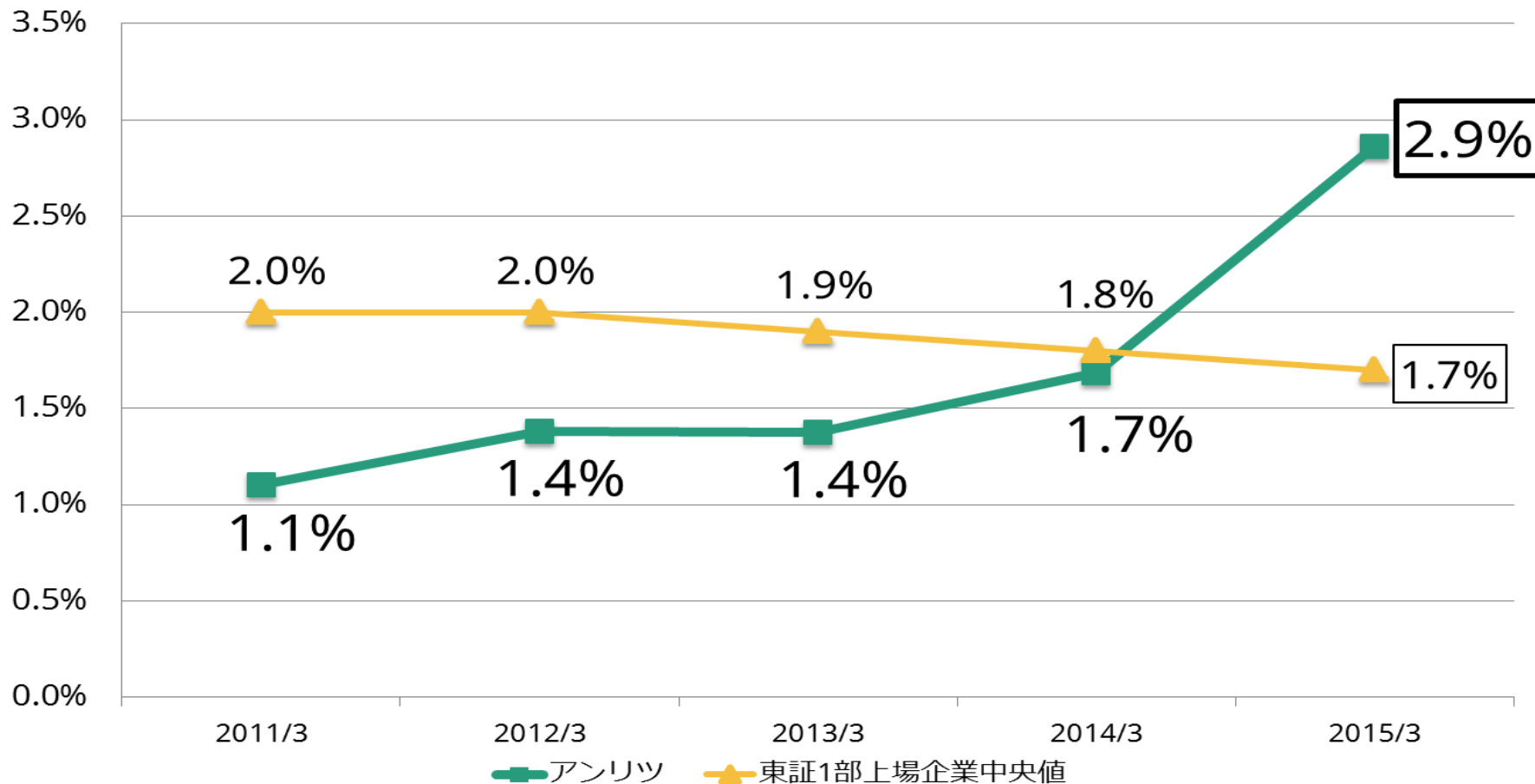
	年間配当	当期利益	配当性向
2016年3月期（予想）	24円	50億円	66%
2015年3月期	24円	79億円	43%

3年間平均の総還元性向 45.4%（自己株式取得50億円含む）



4-1. 株主還元の充実 ②

配当利回りの推移



配当利回り

アンリツ = 「1株当たりの年間配当金」 ÷ 「期末時点の株価」

東証一部上場企業中央値 = 「支払配当総額」 ÷ 「期末時点での時価総額」 出所：東京証券取引所統計をもとに作成

4-2. コーポレートガバナンス基本方針の制定

当社は、東証の定める「CGコード」の諸原則を支持し、より良いCGを実現するための考え方と、組織体制・しくみなどを示すとともに、その整備・改善に取り組んでいきます

1. 総則

- 1.1 経営理念・経営ビジョン・経営方針の策定
- 1.2 コーポレートガバナンスに関する基本的考え方
- 1.3 内部統制システムの構築と運用

2. ステークホルダーとの関係

3. 適切な情報開示と透明性の確保

4. コーポレートガバナンスの体制



企業価値向上
利益ある持続的成長

Webサイトに掲載

<http://www.anritsu.com/ja-JP/about-anritsu/corporate-information/corporate-governance>

CG: コーポレートガバナンス

4-3. アンリツ IRサイトのご紹介

アンリツ

検索

押す



<http://www.anritsu.com/ir>

会社情報、財務・業績データ、決算関連資料、事業紹介など、皆さまの情報収集に役立つ情報を掲載しています。

【アクセス方法】

アンリツホームページ(<http://www.anritsu.com>)→画面下「投資家のみなさまへ」をクリック

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。